平成30年度 廃棄物会計　ごみ・資源物処理経費に総額約29億4,583万2千円

市民１人当たり　2万4,312円
１世帯当たり　4万8,896円

平成30年度にごみ・資源物の処理にかかった経費は、総額で約29億4,583万２千円でした。これは、本市の平成30年度一般会計決算の約6.5％、市税収入の約12.3％になります。平成30年度のごみ・資源物の総排出量は26,768ｔでしたので、１kg当たり110.1円となり、市民１人当たりで見ると２万4,312円、１世帯（平均約2.0人）当たり４万8,896円になります。

歳入総額は約4億5,469万3千円

ごみ・資源物の処理に係る歳入は、約４億5,469万３千円でした。これは、ごみ・資源物処理経費総額の約15.4％に当たります。歳入のうち、家庭系ごみ処理手数料は約２億9,193万４千円、粗大ごみ処理手数料は約3,160万円でした。

環境基金について

環境基金は、ごみ処理施設の整備や新たなごみ減量施策、環境保全事業の充実などに充当するため設置しているものです。平成30年度は環境基金に２億1,483万６千円が積み立てられました。内訳は、家庭系ごみ処理手数料収入約２億9,193万４千円の約25％に当たる約7,298万３千円、一般財源から約１億4,185万３千円です。

資源化処理にも多額の経費が使われます

平成30年度に資源化処理（資源物の収集、資源物・燃やさないごみ・プラスチックごみなどの資源化）にかかった経費は、約７億6,750万円（ごみ・資源物処理経費総額の約26.1％）でした。限りある資源を有効活用するため、資源物を分別することはもちろん大切です。しかし、その処理には多額の経費が使われます。そのことからも、まずはごみになるものを元から減らす発生抑制に取り組むことが重要です。

ごみの減量でいちばん大切なことは発生抑制です

日常生活の中で実践できる、代表的な発生抑制の取組を紹介します。

▷生ごみの水切りを徹底する
▷マイボトル、マイバッグを持参する
▷余分なものは買わない
▷過剰包装やダイレクトメールは断る
▷食材は作り過ぎない、使い切る

発生抑制に取り組んだ後に、使えるものは何度でも使うリユース（再使用）、分別の徹底により資源になるものを捨てずに再生利用するリサイクル（再生利用）に取り組むことが大切です。引き続き、発生抑制を最優先としたごみの減量・資源化の推進へのご理解・ご協力をお願いします。

１ｔ当たりの処理経費

種　別		処理経費
燃やすごみ		13万6,786円
燃やさないごみ		16万1,782円
粗大ごみ	可燃系、布団	12万2,554円
	不燃系	17万5,400円
プラスチックごみ		14万2,827円
有害ごみ		12万4,487円
古紙・布		2万7,006円
びん・スプレー缶		7万1,950円
空き缶・金属		20万1,332円
ペットボトル		25万2,276円
拠点回収		9万4,534円
剪定枝、乾燥生ごみ		11万989円
集団回収		1万5,475円

ごみ・資源物の処理に係る歳入内訳

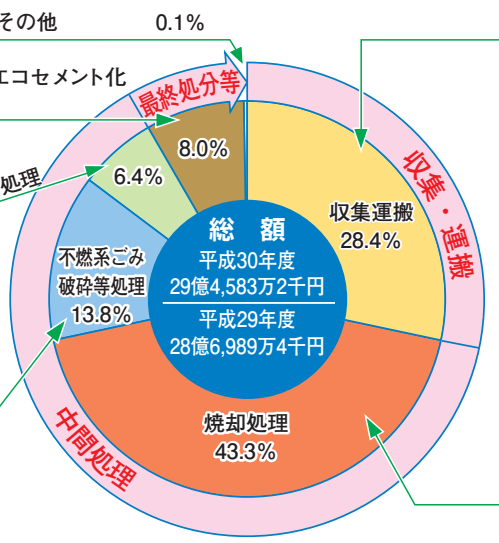
主な内訳	家庭系ごみ処理手数料	2億9,193万4千円
	事業系ごみ処理手数料	2,343万1千円
	自家搬入ごみ処理手数料	2,122万8千円
	粗大ごみ処理手数料	3,160万円
	可燃・不燃ごみ有価物売り払い収入	4,784万1千円
	その他	3,865万9千円

	平成30年度	平成29年度
その他	375万1千円	404万1千円

	平成30年度	平成29年度
埋立・エコセメント化処理	2億3,658万4千円	2億3,639万8千円

	平成30年度	平成29年度
選別等処理	1億8,871万9千円	1億7,728万5千円
古紙・布	818万6千円	717万7千円
びん	3,944万9千円	3,824万9千円
空き缶・金属	3,733万4千円	3,347万6千円
ペットボトル	3,526万7千円	3,197万8千円
拠点回収	426万8千円	426万6千円
可燃粗大・布団	1,802万3千円	1,578万4千円
剪定枝・乾燥生ごみ	4,619万2千円	4,635万5千円

	平成30年度	平成29年度
不燃系ごみ破砕等処理	4億553万3千円	4億7,386万9千円



	平成30年度	平成29年度
収集運搬	8億3,592万7千円	8億841万5千円
燃やすごみ	2億3,032万3千円	2億2,897万2千円
燃やさないごみ	5,492万2千円	5,460万1千円
粗大ごみ	4,736万8千円	4,707万3千円
プラスチックごみ	9,820万1千円	9,762万1千円
古紙・布	1億3,175万6千円	1億3,097万3千円
びん・スプレー缶・有害ごみ	3,340万1千円	3,322万9千円
空き缶・金属	3,751万2千円	3,730万4千円
ペットボトル	5,629万9千円	5,596万6千円
拠点回収	433万4千円	430万3千円
有機性資源（剪定枝・乾燥生ごみ）	1億1,807万2千円	9,437万4千円
集団回収	2,373万9千円	2,399万9千円

	平成30年度	平成29年度
※焼却処理	12億7,531万8千円	11億6,988万6千円

※浅川清流環境組合負担金を含む

処理するのにどれくらいかかるのか？

燃やすごみ	燃やさないごみ	プラスチックごみ	古紙・布	びん・スプレー缶	缶	2ℓペットボトル
(1kg)	(1kg)	(1kg)	(1kg)	(100g当たり)	(50g)	(75g)
⇒136.8円	⇒161.8円	⇒142.8円	⇒27.0円	⇒7.2円	⇒10.1円	⇒18.9円

ごみ減量大作戦!!　㉓

日ごろから、ごみの減量と資源化にご協力いただきまして、ありがとうございます。外出先での水分補給のため、ペットボトルや缶入り飲料を購入する機会も多いと思いますが、今回はペットボトルや空き缶を捨てる際の注意点についてお知らせします。まず、ペットボトルや空き缶を捨てる際は、中を軽く水洗いしてから出してください。次に、ペットボトルのラベルはできるだけはがしてください。ラベルにミシン目がないなど、はがしにくい場合は無理にはがす必要はありません。はがれたラベルとキャップはプラスチックごみになります。また、ペットボトルや空き缶は、なるべく袋ではなく、かごに入れて出してください。袋に入れて出す場合、空き缶などの袋にびんを混ぜて出すことは、回収中に袋の中で割れて、大変危険ですので絶対にやめてください。

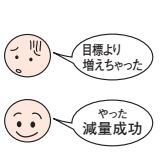
水洗い、分別など手間がかかりますが、引き続き、ごみの減量と資源化の推進ため、皆さんのご理解・ご協力をお願いします。

【７月分のごみ排出量報告】

７月分の燃やすごみ１人１日当たり排出量は、274.3ｇとなり、目標値（269.0ｇ）を5.3ｇ上回りました。

ごみ1人1日当たりの排出量（単位:g）

	7月	目標量	差引
燃やすごみ（市内全域）	274.3	269.0	5.3
燃やさないごみ（市内全域）	27.8	32.5	△4.7



	元年度6月	30年度7月
（参考）燃やすごみ 前月・前年度同月の排出量	241.2	275.4
（参考）燃やさないごみ 前月・前年度同月の排出量	31.4	28.5

可燃ごみ処理の支援に深く感謝申し上げます

現在事業を進めている浅川清流環境組合（構成市＝日野市、国分寺市、小金井市）の新可燃ごみ処理施設は、令和２年４月からの本格稼働を予定しております。また、本年12月には、本格稼働に向けた試運転に伴う可燃ごみの搬入開始を予定しており、それに伴い、多摩地域の各団体による可燃ごみ処理支援が終了する予定です。二枚橋衛生組合の焼却炉が老朽化したことから平成19年３月末に全炉の運転を停止して以降、これまで長年にわたり、市内から発生する可燃ごみの処理にご支援をいただいた多摩地域各団体の施設周辺にお住まいの皆様ならびに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

今年度の可燃ごみ処理は、多摩川衛生組合（構成市＝稲城市、狛江市、府中市、国立市）、国分寺市、ふじみ衛生組合（構成市＝三鷹市、調布市）にご支援をいただき、滞りなく処理することができています。施設周辺にお住まいの皆様ならびに関係者の皆様に重ねて感謝申し上げます。

しかしながら、浅川清流環境組合の新可燃ごみ処理施設が稼働するまでの間、可燃ごみの処理は多摩地域の各団体にお願いしなければなりません。市民の皆さんには、ご支援をいただいている各施設周辺にお住まいの皆様および関係者の皆様へのご負担を軽減するため、引き続き、循環型社会の形成に向けて、ごみの減量・資源化の推進に取り組んでいただくようお願いします。

令和元年度の可燃ごみ処理の支援先

支援先	支援量
多摩川衛生組合	4,700ｔ
国分寺市	2,700ｔ
ふじみ衛生組合	2,600ｔ
合　計	10,000ｔ